

Flying Disc Times

VOL.88('11.10)

第37回全日本ガッツ選手権大会	1
第36回全日本フライングディスク個人総合選手権大会	5
第22回全日本学生アルティメット選手権大会	10



第37回全日本ガッツ選手権大会



2011年4月30日(土)～5月1日(日)の2日間、茅野市総合運動公園(長野県茅野市)にて第37回全日本ガッツ選手権大会が開催された。今大会はオープン17チーム、ウィメン5チームが出場した。

オープンでは3連覇を目指すKatonに対し、昨年準優勝のMAR'S、7月にアメリカで行われるIFTに向けて結成した学生チームTorrentがどのような戦いを見せるのか。今大会のオープン優勝チームは2012年大阪府堺市で開催されるWUGCの代表に内定するということもあり、例年にも増して見逃せない戦いとなった。

またウィメンでは昨年初優勝チームの雅が2連覇を目指す中、メンバー新たなSelfishLOOPが如何に阻止する



のか注目が集まった。

今大会は初めて、全試合がグランドコンディションのよい陸上競技場で行われた。オープンの部では、優勝候補の KATON、MAR' S、SELFISH、空牙が順当に勝ち上がり、翌日の決勝トーナメントに向けてシード権を獲得した。上位常連の GRABBERS と ORBIT も予選リーグを1位で勝ち抜け、優勝へ向けて着実に駒を進めた。また、アメリカ遠征を目前に意気上がる Torrent が A.G.Funks を下し、決勝トーナメント進出を果たした。

2日目は Torrent が初日の勢いそのまま際立った活躍を見せた。準々決勝で Mar's に敗れたものの、順位決定トーナメントで ORBIT にストレート勝ち。5位決定戦では GRABBERS を3セットにもつれ込む熱戦の末に倒し、学生チームとしては久々に社会人を抑えての入賞となった。

準決勝第1試合は王者 Katon と昨年の関東ガッツ優勝の SELFISH が対決。ミスのない圧倒的な試合運びにて Katon がストレートで勝利した。準決勝第2試合は優勝経験豊富な MAR' S と近年着実に力をつけてきた空牙が対決。勝負どころで MAR' S が強さを見せつけ、勝利した。決勝戦のカードは昨年と同じく Katon vs. MAR' S となった。ウィメンは2日間で総当たり戦を行った。学生チームの日本大学・獨協大学、安定した強さを持つ ORBIT も健闘したが、昨年度優勝の雅がミスのない試合運びで全勝、SelfishLOOP が安定したプレーで2位に入り、オープンに続き、昨年と同じく雅 vs. SlefishLOOP のカードとなった。



決勝戦は、オープン・ウィメンともに2面並んだコートで同時開催で行われた。観客は2つのコートを行き来しながら熱戦の行方を見守った。

ウィメン決勝1セット目。SelfishLOOP は昨年 MVP の雅/師岡奈緒子選手にディスクを持たせない作戦をとるが、思うように試合をコントロールできない。次第に師岡選手にディスクが集まりはじめ、その男勝りなスローが容赦なく SelfishLOOP のディフェンスを突き崩し、終始優位を保った雅が 21-12 で1セット目を先取した。続く2セット目、体制を立て直した SelfishLoop は中山理賀選手のスーパーフォロー

ーや小松あゆみ選手の勢いあるスローで流れを掴みかけるが、雅も小貫佐知子選手のダイブフォローが飛び出し、容易に優劣が定まらない接戦となる。終盤までもつれた試合は、攻撃力のみならず、高い守備力とミスのない堅実なプレーを見せた雅が最後に押切り、21-19 で勝利。ストレート勝ちで優勝を飾った。



オープン決勝1セット目。Katonは攻撃力の高い西形直樹選手・大櫛良一選手を中心に、相手を寄せ付けない総合力でMAR'Sを圧倒。MAR'Sは自分たちのプレーを存分に発揮することができないまま、21-11でKatonが先取した。続く2セット目ではMAR'S/堀井大揮選手がクリーンキャッチを連発、癖のあるスローでKatonを揺さぶるも、Katonは堅実なフォローと長田武選手の正確なコントロールのスローで試合を支配して着実にリードを広げ、21-14でKatonが勝利。3年連続9回目の優勝を果たした。



今大会では例年スピードガンコンテストを行っていたが、他のディスク競技を是非経験してほしいとディスタンスのトライアル会を行った。アンダー19日本記録保持者の日本大学/横田玲奈さんにもデモンストレーションを行ってもらいスタートしたが、予想以上の盛り上がりを見せ、ガッツプレイヤーの多彩な一面を垣間見た。また、オープン/ウィメンともに両日とも陸上競技場内で開催できたことで、常に試合を互いに観戦し合うことで、より活気が生まれ、一体感のある大会になったと思う。

ただし、このような運営ができたのはウィメンの参加チーム数が昨年に増してさらに減ってしまったことがあげられる。特に学生チームの減少が男女ともに著しい。競技者をいかに増やしていくかは例年の課題ではあるが、ガッツ委員会ではガッツをプレーする機会を増やすべく、気軽に参加できる大会企画を進めるとともに、関東/東海圏のみならず、日本全国を視野に入れた普及活動を行っていきたい。

ウィメン 優勝 雅

ウィメン 準優勝 Selfish LOOP



オープン 優勝 KATON



オープン 準優勝 MAR'S



オープン MVP 長田 武 選手(KATON)

ウィメン MVP 師岡 奈緒子 選手(雅)



大会結果

オープンの部		ウィメンの部	
優勝	Katon	優勝	雅
2位	MAR'S	2位	Selfish LOOP
3位	SELFISH	3位	ORBIT
4位	空牙	4位	日本大学 Hummingbirds
5位	Torrent	5位	獨協大学 Pumpkins~season2~
6位	GRABBERS①		
7位	ORBIT		
8位	KAH!		
9位	ちゃばんず		

10位	かませ犬		
11位	トリプルH		
12位	JAVA		
13位	横浜国立大学 COUGARS		
14位	日本大学 Hummingbirds		
15位	GRABBERS②		
16位	A.G.FUNKS		
17位	獨協大学WAFT! NORTH 1000 LIVES		
18位	dokkyo 大学 WAFT!(スクラッチ)		

第36回全日本フライングディスク個人総合選手権大会



2011年7月29日～31日、国営昭和記念公園（東京都立川市・昭島市）にて、第36回全日本フライングディスク個人総合選手権大会が開催された。昨年までとは異なり、3日間の日程で7種目（ディスタンス、アキュラシー、SCF、ディスクソーン、ディス

クゴルフ、フリースタイル、DDC）全てをこなす従来の開催方法となり、また、12年ぶりの東京開催も手伝って、震災の影響で開催要項の発表が遅れたにもかかわらず、オープン39名、ウィメン8名、チャレンジ9名の計56名の選手が参加した。

昨年のオープン総合優勝の二人は、大島寛選手は不参加、大内勝利選手は大会1週間前に右足首を負傷という本命不在の状況もあり、世代交代の期待が高まる幕開けとなった。

大会1日目

大会初日は、ディスクゴルフ（常設コース、2ラウンド）とアキュラシー（予選・決勝）が行われた。

ディスクゴルフは、常設コースをそのまま使用したため、距離こそ短かったものの、日本のディスクゴルフの聖地とも言える昭和記念公園で開催できたことは、意味あることだったと思われる。1ラウンド目に石原選手が41の好スコアを出して1位。大内選手も負けじと、44というスコアで2位。2ラウンド目には横田選手が41で回り、石原選手に迫ったが、トータルスコアでは、1打差で石原選手が逃げ切って優勝した。2位は横田選手、3位は川崎選手と、JPGDAツアーでも活躍している3選手が上位を占めた。またレディースで優勝した吉田直代選手は、オープンも含めた全選手中でも6位の好スコアであった。また、川崎選手、手塚選手、岩藤選手がホールインワンを達成し、特別賞が送られた。

アキュラシーでは、途中から小雨が降り始め、あまり良いコンディションとは言えない中、日本記録保持者でもある大内勝利選手が予選17投、決勝15投の安定したスコアを出し、優勝した。ウィメンは、決勝で小松選手、吉田直代選手、大内久美子選手の3選手が並び、サドンデスを行ったが、同じく日本記録保持者の小松選手が優勝した。

大会2日目



2日目は、DDC、SCF（予選）、ディスクソン（予選・オープンのみ）が行われた。

DDCオープンは、6チームずつの2リーグに分かれてリーグ戦を行い、その結果を元に決勝トーナメントを行い、順位を決定した。予選Aリーグでは、黒田・石原ペアが1位、横田・丹波ペアが2位で通過、Bリーグでは、川崎・吉村ペアが1位、大内・岩藤ペアが2位で通過し、常に好成績を残している選手らが順当に決勝トーナメントに駒を進めた。

決勝は、グランドマスターの川崎・吉村ペアと、30代の黒田・石原ペアの戦いとなり、第1セットは黒田・石原ペアが先取したものの、残り2セットを川崎・吉村ペアが連取し、昨年に続き連覇を果たした。

ウィメンは、手塚・小松ペアが安定した強さを見せ、福原・大内ペアを下して優勝した。結果的にはベテラン選手が上位を占めたが、ジュニアのアルティメットで活躍している島兄弟なども健闘し、今後の活躍を期待させた。

SCFは、風上方向に向かってディスクを投げることによって、少しでもディスクを浮かせることが重要となる競技であるが、競技が始まるとピタリと風が止んだため、テクニックだけでなく遠投力・走力も兼ね備えた選手に有利に働いた。その中でも、昨年SCF優勝で今や日本の第一人者の石原選手が、MTAで9秒97、TRCで64.72m、SCFポイント（MTAの秒数×5.5+TRCのm数）119.56ポイントの好記録を出し、予選を通過した。大会出場経験の浅い若手の杉渕選手（予選2位）、野村選手（予選3位）が予選を通過したのも特筆すべき点である。



SCFでは、チャレンジ部門の選手も7名参加し、堀菜華選手の記録（MTA 4秒48、TRC 15.53m、SCFポイント 40.17）は、年齢別の日本記録、世界記録を更新した。

ディスクソンは、走力とスローのテクニックが問われる競技だが、今回のコースは、平坦なグラウンドに作るコースと違い、公園ならではの立ち木や起伏を利用し、また、テスト3箇所とロープで作った人口の池も配し、スローのテクニックが生かされる魅力的なコースであった。この日の予選では、常に上位を伺う横田選手が走力とテクニックを存分に発揮し、2位の黒田選手を32秒も引き離す驚異的なタイムで1位通過した。

夜には、立川市内でプレイヤーズパーティが開かれ、新旧のプレイヤーが交流する、楽しいパーティとなった。

大会3日目

大会最終日は、ディスクソーン（決勝）、ディスタンス（予選・決勝）、SCF（決勝）、フリースタイルが行われた。

ディスクソーン決勝では、予選でも素晴らしい記録を出した横田選手が優勝。大会初出場の丹波選手（DDCでも3位入賞）が2位、高校生の島彰吾選手が3位と、今後に期待できる若手選手の活躍も目立った。また、ウィメンは福原選手が優勝した。



ディスタンスは小雨の影響もあってか、全体的に記録が伸び悩んだが、日本記録保持者の大内選手が、予選で147.48m、決勝で160.12mの記録を出し、負傷のハンデを背負いながらも、貫禄の優勝となった。ウィメンは、小松選手と福原選手の一騎打ちに見られたが、福原選手が予選で117.08m、決勝で114.19mの好記録を出し、優勝した。

SCF決勝は、MTAでひとり石原選手が10秒越えの記録を出したが、TRCで伸び悩み、MTAで9秒25、TRCで63.14mの野村選手が優勝した。ウィメンでは、福原選手がMTAで8秒77、TRCで日本記録にあと3cmと迫る51.30mと男子顔負けの記録を出し、優勝した。振り返ってみれば、この日のウィメンの種目は、全て福原選手が制することとなった。

フリースタイルは、雨が強くなるコンディションの中で行われた。岡村・片倉ペアが優勝、鈴木・神戸ペアが2位と、若手のフリースタイルプレイヤーが活躍した。

個人総合では、オープンは、全種目で好成績を残した石原選手が初優勝、24年前の総合優勝者である横田選

手が2位となった。ウィメンは、小松選手が自身6回目の優勝。昨年優勝の福原選手は、初日の不参加が響き、2位となった。



オーバーオール委員会より

今大会は、予定会場が二転三転し、一時は大会の延期も考えざるを得ない状況でしたが、協会事務局のみならず、日本ディスクゴルフ協会、東京都ディスクゴルフ協会、株式会社クラブジュニアの方々の多大なる協力のもと、なんとか開催することができました。本当にありがとうございました。また、ギリギリでの開催要項発表にもかかわらず、多くの選手のみなさんにご参加いただき、今年も楽しい大会になったと思います。

次回は、もっとより良い大会になるよう、スタッフ一同、力を尽くしたいと思いますので、友人、ご家族でお誘い合せて、是非、多くの選手に参加していただきたいと思います。

グランドマスター部門 入賞者

優勝:横田 浩 選手(中央)
 準優勝:川崎 篤人 選手(左側)
 第3位:吉村 文彦 選手(右側)



ウィメン部門 入賞者

優勝:小松 由香里選手(中央)
 準優勝:福原 有希 選手(右側)
 第3位:手塚 明子 選手(左側)



マスター部門 入賞者

優勝:大内 勝利 選手(中央)
 準優勝:黒田 大輔 選手(左側)
 第3位:岩藤 克実 選手(右側)



オープン部門 入賞者

優勝:石原 雅敏 選手(中央)
 準優勝:横田 浩 選手(左側)
 第3位:大内 勝利 選手(右側)



大会結果

大会詳細結果は、協会ホームページに掲載。

個人総合：オープンの部（上位3位）									
順位	氏名	総合 ポイント	ゴルフ	アキュラ シー	DDC	ディスカ ソン	ディス タ ンス	SCF	フリース タイル
1位	石原 雅敏	152	24	23	22	20	23	22	18
2位	横田 浩	144	23	22	20	24	15	20	20
3位	大内 勝利	141.5	21	24	18	15.5	24	23	16

個人総合：ウィメンの部（上位3位）									
順位	氏名	総合 ポイント	ゴルフ	アキュラ シー	DDC	ディスカ ソン	ディス タ ンス	SCF	フリース スタイル
1位	小松 由香里	26	4	6	6		5	5	
2位	福原 有希	22			4	6	6	6	
3位	手塚 明子	17	5	3	6			3	

個人総合：マスターの部（上位3位）									
順位	氏名	総合 ポイント	ゴルフ	アキュラ シー	DDC	ディスカ ソン	ディス タ ンス	SCF	フリース スタイル
1位	大内 勝利	38	6	6	5	4	6	6	5
2位	黒田 大輔	32	5	1	6	6	3	5	6
3位	岩藤 克実	23.5	4	4.5	5	2	4	4	

個人総合：グランドマスターの部（上位3位）									
順位	氏名	総合 ポイント	ゴルフ	アキュラ シー	DDC	ディスカ ソン	ディス タ ンス	SCF	フリース スタイル
1位	横田 浩	51	8	8	6	8	5	8	8
2位	川崎 篤人	34	7	6	8		6	7	
3位	吉村 文彦	33	6	7	8		8	4	

今大会の世界記録・日本記録

種目	クラス	氏名	記録	
SCF	Women (8歳以下)	堀 菜華	40.17 ポイント (MTA : 4.48 秒 / TRC : 15.53 m)	日本記録更新
TRC	Women (8歳以下)	堀 菜華	15.53m	日本記録更新

第22回全日本学生アルティメット選手権大会

東日本予選



2011年8月22日(月)～24日(水)、茨城県ひたちなか市、新光町グラウンドにて第22回全日本学生アルティメット選手権大会東日本予選が行われた。3日間とも快晴、そして猛暑のなか行われた昨年の東日本予選とは大きく違い、今年は初日から雨が降り、3日目の途中には雷まで鳴り、試合を一時中断せざるを得なかった。そんな悪天候の中でも、例年通り選手たちは素晴らしいプレーを見せてくれた。

OPEN部門は、東西ともに出場チーム数が年々増加していることを考慮し、今大会から本戦出場チーム数が8チームずつに増えた(昨年まで東7、西5)。東日本予選は28チームが参加、本戦出場を目指す白熱した

戦いが繰り広げられた。その中で大きく順位を上げて、本戦への切符をつかんだチームが獨協大学 WAF!だ。昨年は15位であったのに対し、今年は上位リーグで順調に勝ち進み、準決勝で惜しくも上智大学 FREAKS に敗れたものの3位という好成績を残した。また、その上智大学 FREAKS(昨年1位)を破り東日本予選優勝を勝ち取ったのは早稲田大学 SONICS(昨年5位)だ。準決勝、國學院大学 TRIUMPH との試合は10対9とギリギリでの勝利であったが、決勝戦では見事なプレーで3点の差をつけ10対7で勝利した。

WOMEN部門は、22チームが東日本予選に参加、昨年と同じく上位7チームが本戦出場権を獲得することができた。成蹊大学 LIBEROS(昨年17位)が4位、首都大学東京 BUTTERFLY(昨年14位)が5位と順位をかなり上げ、OPEN部門と比べて本戦出場チームに大きな変化が見られた。不動の1位は日本体育大学 BARBARIANS。参加人数が27人と、今大会のWOMEN部門参加チームの中で最多であり、プレーだけでなく、チームが一丸となって行う応援にも迫力があつた。決勝戦では10対4で勝利し、上智大学 FREAKS から王座を守った。

2日目に行われた新人オールスター戦は、OPEN・WOMEN共に1年生とは思えないようなプレーの連続で、プレーヤーも見守る応援側も白熱した試合となった。積極的なシュートやダイブキャッチなど、迫力満点の内容であった。出場選手を始めとする1年生のこれからの活躍を大いに期待したい。

(広報部 2年 法政大学 伊藤 茜)

中部・西日本予選

2011年8月23～25日、堺市立サッカー・ナショナルトレーニングセンターにて、第22回全日本学生アルティメット選手権の西、中部予選が行われた。オープンの部は22チーム、ウィメンの部は15チームが参加した。今年は、オープンの本戦枠が昨年までの5チームから8チームと、3チーム増えたので、各チームは本戦行きを賭けて、より一層熱い戦いが繰り広げられた。

オープンの部で、本戦に出場したチームは、昨年も出場した大阪体育大学、岡山大学、関西学院大学、中京大学に続き、大阪大学、京都大学、甲南大学、同志社大学が本戦へ行けることとなった。2日目、本戦行きをかけて、昨年本戦に出場した和歌山大学と甲南大学の試合では、甲南大学がリードしていたものの、試合終了5分前に同点になるなど激闘が繰り広げられた末、甲南大学がチーム結成以来初の本戦出場の切符を手にした。また、大阪

大学も、一昨年本戦に出場した近畿大学を制して本戦初出場を果たした。

ウィメンの部では、2日目に、昨年本戦に出場した大阪体育大学、中京大学、びわこ成蹊スポーツ大学に続き、龍谷大学が本戦常連チームであった関西学院大学に大差をつけて勝利し、初の本戦出場が決定した。3日目は、本戦出場の1枠をかけて、近畿大学、同志社大学、和歌山大学、関西学院大学が熱い戦いを繰り広げた。近畿大学はゾーンをかけて和歌山大学を圧倒し、見事本戦出場の切符を手にした。

(広報部 3年 甲南大学 畝目美穂)

本戦



2011年8月31日(水)～9月1日(木)、全日本学生アルティメット選手権大会本選が静岡県富士市の富士川緑地公園にて行われた。オープンの部は今年から東日本支部予選、中部・西日本・九州支部予選ともに上位8チームの計16チームが、ウィメンの部は例年通り東日本支部予選の上位7チームと中部・西日本・九州支部予選の上位5チームの計12チームが本選へと駒を進めてきた。中には初めて本戦出場を果たすチームもあり、その戦いぶりが注目された。

1日目の予選リーグでは、今年の学生チームの実力が拮抗していることを表すかのように、どこのリーグでも接戦が繰り広げられた。オープン、ウィメンともに各リーグの1位チームしか、駒沢での決勝戦を懸けた2日目のトーナメントに進めないため、駒沢や学生優勝を目指すチームにとっては初日から気の抜けない戦いとなった。

2日目のトーナメント戦では、タイムキャップ制が取り入れられ、従来の時間制(50分)試合形式から変更されていることへの対応力が求められる。時折、雨が激しく降ったり、止んだりする難しいコンディションの中で、チームの人数と時間配分を考えたタイムキャップならではの、駆け引きが行われた。ウィメンの部の準決勝、日本体育大学 vs. 中京大学は前半リードした日本体育大学に対し、中京大学は後半開始直後に連続ブレイクで追いつき、その後はキープ合戦となる緊迫した試合展開。最後は、お互いあと1点で決勝点という場面でブレイクした中京大学が昨年に続き、決勝戦への切符を手に入れた。オープンの部の準決勝、上智大学 vs. 大阪体育大学は昨年と同じ組み合わせ。この試合も激しいキープ合戦となり、勝負の行方は最後の1点までもつれ込んだ。結果は上智大学が昨年のリベンジを果たすかたちで、見事20年振りの決勝進出を決めた。

(広報部 2年 早稲田大学 三崎令雄)

決勝戦

2011年9月3日(土)、東京都駒沢オリンピック公園総合運動場陸上競技場にて第22回全日本学生アルティメット選手権大会決勝戦が行われた。

ウィメンの部は昨年と同じ顔合わせで中京大学と大阪体育大学の対戦となった。風が強く吹いていたこともあり、両チームともなかなか思い通りのプレーができていなかったが、そんな中でもお互いに得点を重ねて行くどちらも譲らない決勝戦にふさわしい試合であった。試合終盤、両チームとも疲れが見え始めたなかで強さをみせたのは昨年の王者の中京大学であった。大阪体育大学のミスを得点につなげ、粘る大阪体育大学を振り切り11対10で見事に連覇を達成した。

オープンの部は、上智大学と関西学院大学という体育系の大学ではない大学同士の対戦となった。ウィメンの決勝と同様に風が強く吹いていて、関西学院大学がその対応に苦しむ中で上智大学は確実に得点につなげ前半か



ら大きなリードをとった。このまま上智大学が一気にいってしまうのかと思われた後半、風も少し弱まり、徐々に慣れてきた関西学院大学がここから怒涛の追い上げを見せた。上智大学にミスが出始め、追いつくかに思われた。しかし、前半の差がひびいたのか勝負どころで関西学院大学は得点を許し、上智大学が逃げ切って 14 対 11 で 20 年ぶりの優勝となった。オープン、ウィメン共に強風の中での試合とは思えないプレーをみせ、会場を大いに盛り上げる素晴らしい決勝戦となった。

(広報部 3年 日本大学 岩楯 健太)

オープン 優勝 上智大学 FREAKS



ウィメン 優勝 中京大学 Naughty Kids



オープン 準優勝 関西学院大学 AROOWS



ウィメン 準優勝 大阪体育大学 BOUHSEARS



個人賞

オープン ベスト7



ウィメン ベスト7



MVP

オープン 玄島 岳 選手(上智大学)
ウィメン 新井 真菜美 選手(中京大学)



敢闘賞

オープン 名元 隆二 選手(関西学院大学)
ウィメン 稲村 知子 選手(大阪体育大学)



オープンの部		ウィメンの部	
MVP	玄島 岳 選手(上智大学)	MVP	新井 真菜美 選手(中京大学)
敢闘賞	名元 隆二 選手(関西学院大学)	敢闘賞	稲村 知子 選手(大阪体育大学)
ベスト7	玄島 岳 選手(上智大学)	ベスト7	新井 真菜美 選手(中京大学)
	岡橋 知也 選手(上智大学)		丸山 由紀 選手(中京大学)
	岡 亮佑 選手(上智大学)		瀬藤 桜子 選手(中京大学)
	衣笠 圭祐 選手(上智大学)		川崎 亜里沙 選手(中京大学)
	名元 隆二 選手(関西学院大学)		稲村 知子 選手(大阪体育大学)
	吉富 修平 選手(関西学院大学)		河野 有香 選手(大阪体育大学)
	窪園 侑祐 選手(関西学院大学)		池治 ちあき 選手(大阪体育大学)

本戦結果

オープンの部		ウィメンの部	
優勝	上智大学FREAKS	優勝	中京大学Naughty Kids
2位	関西学院大学AROWS	2位	大阪体育大学BOUHSEARS
3位	大阪体育大学BOUHSEARS	3位	日本体育大学BARBARIANS
4位	同志社大学MAGIC	4位	龍谷大学ROC-A-AIR
5位	早稲田大学SONICS	5位	上智大学FREAKS
6位	國學院大学TRIUMPH	6位	首都大学東京BUTTERFLY
7位	日本体育大学BARBARIANS	7位	日本大学Hummingbirds
8位	甲南大学CHIKENHRART	8位	成蹊大学LIBEROS
9位	京都大学BREEZE	9位	びわこ成蹊スポーツ大学LAKERS
10位	獨協大学WAFT!	10位	筑波大学INVERHOUSE
11位	中京大学FLIPPERS	11位	近畿大学MAFFIA
12位	横浜国立大学COUGARS	12位	立教大学MANEUVERS
13位	岡山大学BLACK HAWKS		
14位	大阪大学ENN		
15位	日本大学Hummingbirds		
16位	筑波大学INVERHOUSE		



NPO法人 日本フライングディスク協会
 本部 〒124-0024 東京都葛飾区新小岩 4-20-24
 『Flying Disc Times』VOL.88(平成23年10月09日発行)
 発行人・師岡 文男/企画 編集・事務局 企画担当
 協力：日本学生フライングディスク連盟 広報部